

受験生にとって大切な夏休み。
頑張る鮫中3年生に、各教科担当の先生
から学習法のお話をいただきました。
学習方法の理解は学習意欲に大きな影響
を与えます。ぜひ参考にしてください。



鮫川中学校 HP
(各種たよりのページ)



【家庭学習の仕方】(大山教頭先生より)

●家庭学習とは？

宿題と自主学習の2本立て

宿題をやるのは当たり前でそれに $\pm\alpha$ が必要です。

●家庭学習の進め方

1日の学習時間：学年+1時間以上

「同じ時間」に「同じ場所」が良いです。

①授業と家庭学習の連動

何か新しいことを試すのも大切ですが、やはり1日5～6時間ある学校の授業が学習の中心であることに間違いはありません。そこが自覚できれば、なぜ宿題が出されるのか、自分で計画した自主学習が必要なのか自ずとその必要性が分かってくると思います。

②計画的な学習習慣

平日の家庭学習はもちろんですが、休日の取り組みや、定期テスト前、長期休業中に計画的に学習することが必要です。

③分からないことをそのままにしない

理解できなかった内容は、授業中に先生や友人に質問したり、家族にも聞いたりする習慣を身につけましょう。

④復習の仕方

・理解するための学習 (数学や理科の計算の公式、英語の文法の法則、漢字のつくりなど)

◆どうしてそうなるのか、理屈を理解し、考え方を身につける必要があるもの



◇調べる + 先生や友人に質問する

・覚えるための学習 (漢字の読み書きや英単語、理科や社会の重要語句)

◆実際に書けるようになるまで練習が必要なもの



◇3～5回程度書いて練習する → 問題に挑戦する → 確認する → 再度練習する

【5 教科学習方法】

○国語（中野先生より）

●漢字・文法

知識を身につける（覚えていないと解けない）

●古文・漢文

基礎をしっかり身につける

- ・歴史的仮名遣い ⇔ 現代仮名遣い の変換
- ・係り結びの法則の知識
- ・古語の意味の暗記

●韻文

県立入試では毎年、詩・短歌・俳句のいずれかが出題

- ・表現技法(対句・倒置・体言止め)の確認

●論説文と小説の解き方

- ・共通の勉強法

過去問や単元テストを活用する

- ・論説文の勉強法

接続語・指示語を確認しながら読む

- ・小説文の勉強法

場面設定(いつ・どこ・だれ)の確認

登場人物の心情の「変化」とその変化の「きっかけ」

○英語（須藤先生より）

●英語の基礎・基本からもう一度取り組みたい場合

英語は積み上げの教科なので、つまづいたところから勉強を始める必要があります

- ・単語の勉強について

スペルを書けるようになるのも大切ですが、まずは英単語 ⇔ 日本語の意味 瞬時に言えるように

- ・文法の勉強について

教科書の下にある"Key Sentence"を暗唱する

- ・英文の読み方について

教科書の本文を活用して、

主語（だれが）・述語（どうする）を徹底して確認

●今以上に力をつけたい場合

いずれかの学習をおすすめします

① 2 学期以降学習する単語・文法を先取りで学習する

② 実力テストや入試過去問を活用する

- ・設問のパターンを知る

・本文の内容と誤りの選択肢の内容を照らしあわせ、どこが違っているかを分析する



○数学（功先生より）

〔基礎・基本の力を身に付けるには〕

・教科書1年～3年を使って、問い、基本の問題を総復習しましょう。発展問題などは無視してかまいません。何も見ずに1度目で出来た問題には鉛筆で問題番号に×をつけます。出来なかった問題は、教科書にやり方が書いてあるのでそれを見て確認して解きます。一通り問題を解いたら、2度目をまた始めからやり直します。その際、×がついている問題は省いて解き、また何も見ないで解けた問題には×をつけていきます。2度目が終わったら3度目までできると素晴らしいです。全部の問題に×がつくまで頑張ったら基本の力は身につけていると思います。

〔応用力・受験対策の力を身に付けるには〕

・ワークの問題C、教科書の章の問題B、豆テストの裏の発展問題を中心に学習しましょう。1年、2年時のワーク・教科書をもっている人はそちらも同様に問題を解きます。1度目はすべてを解き、出来た問題は×をつけ、2度目は×は避けて解き、解けたらまた×をつけます。その繰り返しで全問×がついたらもう一度解き直しましょう。

参考書など購入した人は同じやり方でやってみるのもいいと思います。また、新聞をとっている家庭では高校入試問題がはさまてくることがあるので、そうした問題もしっかりと解いておくことで地力が上がっていくと思います。

※先生が紹介した勉強法は「反復学習法」といわれるものです。繰り返すことで必ず力が伸びます。自分を奮い立たせるためにも学習したノートは捨てずにとって置きましょう。受験前に重なったノートを見て、自信になりますよ。

○数学（八代先生より）

- ・单元ごとに復習する。
- ・間違えた問題は必ず解き直しをする。
(解き直し用のノートを作っていました。)

○理科（竹山先生より）

多くの問題演習に取り組むことが大切です。
同じ内容の答えであっても、聞かれ方は様々だからです。
様々な問題を解いていくと、ある程度の問題パターンが見えてきます。

○社会（大平先生より）

●地理

それぞれの国の位置、貴校、宗教の確認
日本の地域ごとの特色の整理
気候、山地（山脈）、平野の整理

●歴史

時代ごとに出来事、政策、文化、外国との関わり
(貿易)などの整理

※地図、資料、グラフをよく見ると良いです。

